

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 24 日現在

機関番号：27401

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2013～2015

課題番号：25580062

研究課題名(和文)現代インドの英語文学とグローバル化する英語

研究課題名(英文)English Literature in Contemporary India and Globalizing English

研究代表者

難波 美和子(Namba, Miwako)

熊本県立大学・文学部・准教授

研究者番号：50336971

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：現代インドの英語使用者は急速に拡大し、その読解力や嗜好は多様である。2000年代以降、新中間層といわれる層の心をつかむ英語文学作品が登場し、ベストセラーを多数生み出してきた。さらに読者層が拡大し、さまざまな読者の欲求に応える作品が、いまや社会現象にさえなっている。この変化は突然起こったものではなく、長きにわたるインドの英語文学の蓄積の結果である。英語文学を楽しむことはもはや一部のエリート層のものではなく、インドの文学言語として広く定着しつつある。今後も娯楽的作品と文芸的作品とが、どのように関わってインドの英語文学を作り上げていくのかを注目していきたい。

研究成果の概要(英文)：Contemporary English Literature in India has not been only for cultural elite, but it spread around so-called new middle class people. English has been one of Indian languages for literature. It is proved by the market of Entertainment or Commercial fictions are expanding. After 2000, there are many works in English that illustrate the actual mentality of the young generations. They are enlisted in bestselling lists and some of them are called social phenomena, while critics deal with them as not literary arts. But It is the result of historical accumulation of English literature in India, and broaden market of fictions will be fertile field.

研究分野：比較文学

キーワード：インド 英語文学 コマーシャル・フィクション

1. 研究開始当初の背景

現代インド英語文学とは何だろうか。文字通りには、現代インドの多様な文学言語のひとつとして生産消費されている英語文学であろう。しかし、英語文学研究の領域においては、そのように理解されてはいないようである。20世紀末以来、いわゆる「インド系」の英語で書く作家たちの活動は英語文学の拡大・多様化と文学の越境性の観点から注目されてきた。従来の研究は、「インド系作家」をイギリス文学を中心とする英語文学の伝統の中で評価し、100年以上の伝統を持って書かれ、読まれているインドの英語文学を周縁化してきたのではないだろうか。本研究は、インドで現在、実際に英語文学がどのように書かれ、読まれているのかを、英語の大衆化と英語のグローバル化の観点から明らかにし、英語と英語文学の中に現代インドの英語文学がどのように配置されているのかを検討するものである。

最近の20年の間に、インドの英語文学に変化が起きていることは、インドを訪れる研究者たちが感じてきたことである。何が起きているかを確認し、インドの読者が何を読んでいるのかをインドの視点に立って検討しなければならない。

2. 研究の目的

「現代インド英語文学」とは文字通りには、現代インドの多様な文学言語のひとつとして生産消費されている英語文学である。しかし、1980年代以降、いわゆる「インド系」の英語で書く作家たちの活動は英語文学の拡大・多様化と文学の越境性の観点から注目されてきた。これまでの研究が、「インド系作家」を、イギリス文学を中心とする英語文学の伝統の中で評価し、独自の読者を有するインドの英語文学を周縁化してきた。一方で、インドの文学研究においては、英語は植民地時代のアンビバレントなイメージを残していることは否めない。しかし、間違いなく、英語文学はインドの文学伝統において重要な一角を占めるものであって、現在、さらに影響を増している。

本研究は、インドで現在、実際に英語文学がどのように書かれ、読まれているのかを明らかにし、インドの英語文学の伝統が、英語が大衆化している現代インドにおいてどのように配置されているのかを改めて考えることを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 現代インド英語文学の把握：インドの英語文学の最近の動向を確認。

どのような作家、作品がインド本国および海外移民の間で読まれているのかを把握する。

(2) インド英語文学の出版事情：英語文学の出版状況、媒体、読者層などを調査。

インド各地で行われるブックフェアに参加し、出版事情について調査を行う。作家、編

集者、批評家へのインタビューを行う。読者層へのアンケートを広い層を対象に行う。

(3) インド英語と文学：英語が大衆化することによって生じたインド英語の変化を、文学への反映を通じて分析する。

(4) 現代インド英語文学紹介：現代インドの文学状況と英語を学会等を通じて情報的に京する。

(5) メディアミックスと社会：文学と映像化、インターネットによる発信など、文学とさまざまなメディアとの複合的な表現について考察する。

4. 研究成果

インドの英語文学といえば、R.K.ナラヤン、ラージャ・ラーオ、クシュワント・シン、アニター・デサーイーといった作家の名前が挙がってくる。その作品については、伝統と近代、社会と個人の葛藤、インドとヨーロッパ文化の差異、アイデンティティなどが問題として論じられてきた。彼らに共通するのは、高い教養と知識に基づいた重厚で繊細な英語表現であり、優れた構構力だった。彼らの読者はまた、作者と同様の高い教育を受け、文学の伝統に習熟したエリートだった。だからこそ、作家が表現する葛藤や、社会の不条理や不公正に対する怒りや失望に共鳴した。普遍的な問題への取り組みと熟練した手腕によって、時代が変化しても読み続けられているが、読者に読みこなすための力を要求するものではあるだろう。

このような伝統の上に、1980年代以降の国際的な英語文学におけるインド(系)作家たちの活躍がある。彼らもイギリス文学の伝統を内面化する程度に文学的教養を備えた作家たちである。サルマン・ルシュディの『真夜中の子どもたち』が時代を画すものになったことはしばしば指摘されている。90年代に入るとそれは一時的な流行ではなく、英語文学の欠くことのできない要素として認められていった。イギリスでもアメリカでも、「インド系」作家が次々にデビューし、著名な賞を授与され、そうした作品が日本に翻訳紹介される、という現象が続いた。ヴィクラム・セート、アマタヴ・ゴーシュ、ロヒントン・ミストリー、といった名前が思い浮かぶ。インド的であることと同時に普遍的であることが評価されたといえる。彼らがインド(系)であることは間違いなく、作家として出発するまではインドで生活していた者も多い。彼らの活躍を評価する一方で、イギリスやアメリカで評価され、その「インド性」が賞揚される作家たちの作品こそが「インドの英語文学」として強調されすぎること疑問をもつのである。それはむしろ、イギリス・アメリカからみた「インド性」というものではないのだろうか。こうしたイギリス・アメリカの文学批評のコンテクストの中に位置づけられない、優れた英語表現と構成をもつ文学伝統に属する「インド英語文学」が

存在していることを忘れてはならない。インド国内において、ラスキン・ボンドやクシュワント・シンといった長老格の作家たちが活躍を続ける一方、サヒトヤ・アカデミーの英語文学部門の受賞者にヴィクラム・セートやシャーシ・デシュパンデー、ウパマニユ・チャテルジーといった作家たちが登場している。

さらに、文学批評の中では言及されない「インド英語文学」が 2000 年代以降、重要性を増している。それは「売れる」小説である。Suman Gupta が Commercial Fiction と呼んだ、チェタン・バガトに代表される作家たちの作品は、文学に縁遠かった読者をひきつけ、新しい出版市場を生み出している。彼に続く、アヌジャー・チャウハーン、アミーシュらは新しい出版社の設立や購買層の増加に支えられて、売上部数を伸ばしている。若者層へのアンケートでも、バガトや次の世代の作家たちの名前を好きな作家として挙げる例が多い。

現代インドの英語文学では、このように商業的成功を目指してプロモートされる作品も多く出版されており、読者がそうした作品を楽しみ、新しい出版の流れを創り出していることがわかってきた。このことは、英語による文学の享受者がかつてのようにエリート層に限られたものから、より広く、若い世代を多く含む新中間層と呼ばれる人々に拡大していることを示している。この現象は、インターネットを通じたプロモーションやメディアミックスを引き起こしている。

平成 27 年 2 月に行ったデリー・ブックフェアおよび平成 25 年度に引き続きデリー大学等で行った読者層アンケートの分析を通じて、英語文学の受容者層の拡大と、彼らが読む文学作品の多様化が確認された。この傾向は、平成 28 年 1 月から 2 月にかけて行ったアンケートの分析でもみられる。(参照：表 2015 年のアンケートより、Q10 好きな作家)

本研究の最後に、インド最大の文学祭であるジャイプル文学祭を視察した。その結果、現代インドの英語文学におけるいわゆるコマーシャル・フィクションへの注目度の高さを改めて確認した。今後、インドの英語文学においてコマーシャル・フィクションと文芸的作品との間がどのように接近していくかとともに、幅広い文学をメディアミックスも含めて受け入れるこの文学祭は、今後も注目していくべきであろう。

課題の成果は共同研究者 7 名による成果報告書を 3 月に印刷作成した。『現代インド英語文学とグローバル化する英語 研究報告書』はイギリス文学研究、南アジア研究の領域の研究者や、現代インドの文化に関心を持つ人々に贈呈している。

Q10. Who is your Favorite Writer.

2015

rank	Name	language	
1	Chetan Bhagat	English 25, 無回答 1	26
2	Premchand	Hindi 12, Hindi/English 1	13
3	Dan Brown	English 4, 無回答 1	5
	Jane Austen	English のみ	5
5	Shiv Khera	English のみ	4
	Sidney Sheldon	English のみ	4
	William Shakespeare	English のみ	4
8	Durjoy Datta	English のみ	3
	Khaled Hosseini	English のみ	3
	Khushwant Singh	English のみ	3
	R. S. Aggarwal	English のみ	3
12	Amish	English のみ	2
	Irfan Habib	English のみ	2
	L. P. Sharma	English のみ	2
	Mahadevi Verma	Hindi のみ	2
	Paulo Coelho	English のみ	2
	Ravinder Singh	English のみ	2
	Ruskin Bond	English のみ	2
	Sachin Garg	English のみ	2
	Stephenie Meyer	English のみ	2

(表：アンケート 2015)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

森本素世子

刹那の幻想、同時代 第 38 号 特集「無限と有限」、舷燈社、2015 年 6 月

小松久恵

現代英国南アジア系文学にみる帰属意識の変容、追手門学院大学国際教養学部アジア学科年報、第 7 号、2014 年 3 月、56-64.

〔学会発表〕(計 2 件)

難波美和子(代表発表)、森本素世子、小松久恵、榎木園鉄也、松木園久子、関口真理、大工原彩、

現代南アジアの英語文学における大衆性と英語、日本南アジア学会第 28 回大会自由論題(口頭発表)、2015 年 9 月 26 日(土) 於・東京大学駒場 I キャンパス

難波美和子(代表発表)、森本素世子、小松久恵、榎木園鉄也、松木園久子、関口真理、大工原彩、

現代インドの英語文学と英語使用、第 47 回南アジア研究集会～語ろう・食べよう・楽しもう「南アジア」in Nagoya～自由論題(口頭発表)、2014 年 7 月 26 日(土) 於・ウィルあいち(名古屋)

〔図書〕(計 1 件)

小松久恵・粟屋利江・井坂理穂・井上貴子(編)
女が「私」を描くとき、現代インド第5巻
周縁からの声、2015年3月、東京大学
出版、229-248.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

難波 美和子 (NAMBA Miwako)
熊本県立大学・文学部・准教授
研究者番号：50336971

(2) 研究分担者

森本 素世子 (MORIMOTO Soyoko)
東海学園大学・人文学部・教授
研究者番号：70191046

小松 久恵 (KOMATSU Hisae)
追手門学院大学・教養学部・講師
研究者番号：80552306

(3) 連携研究者

榎木 園 鉄也 (Enokizono Tetsuya)
中京大学・国際英語学部・教授
研究者番号：50290771

(4) 研究協力者

松木 園 久子 (Matsukizono Hisako)

関口 真理 (Sekiguchi Mari)

大工原 彩 (Daikuhara Aya)